

一九五九年一〜三月ころ（掲載誌不明）

娘の入学

矢口 新

長女が今年小学校を卒業する。私は別に娘の教育について特別な方針があるわけでないから、ふつうに公立の中学校へ進めばよいのだろうと思っっている。妻もその点は似た者夫婦であって極めて呑気に考えている。

ところが、学校の親の会などで顔を合わせるよそのお母さんたちは、なかなかそうではなさそうで、よく妻も、あなたの娘さんはどこへやるのだ、試験はどこを受けるのだ、と問われるそうである。

ところで、先日妻が、妙なことを言った。長女が「私は中学校の試験は受けないでしょう。お父さんは、私立へ行ったらいけないというのかしら」と妻に聞いたというのである。

私は「いや、私立へ行つたらいけないと言ったおぼえはないが」と即座に返事をしたが、それが妙に気がかりになったので、何時か娘に聞いてみようと思っっていた。

私の気持では、娘が自分で、どこかの学校へ行きたいというのなら、それを止める気はさらさらない。もつとも、あまり妙な希望なら再考を求める位のこと。はするかも知れないが、公立中学校でならなくてはならぬと娘に命令する気はないのである。

それに私は熱心な宗教の信者でもないから、宗教的な学校へやって娘をどう教育しようなどということとは考えていないし、特にこの人に頼んで、娘を教育してもらおうというよ

うな知人もないし、まあ、普通に公立の中学校で、一般人の教育をして貰えばよい位にしか考えていない。またいわゆるよい学校といわれる何々付属中学校へ入れて、将来のことを考えるほど娘の教育に熱心でもない。娘がどうしてもそうしたいというのであれば、しいてとめもしないが、自分から進んで試験勉強をさせて、入れたいとは思わない。

正直のところ、それほど学校のよしあしに敏感でないのである。受験勉強までさせてとはどうしても思えない。普通に中学校へ入って、そこで勉強している中に、高等学校へ入りたると考えるようになったら、そこで勉強して、入れる所へ入ったらよいと思っっている。その時入れなかつたら仕方がないとあきらめるしか、それこそ仕方がない。

こんなことをどこかの奥さんに話したら、それで

は娘さんが可愛そうだといわれたが、どうして可愛そうなのだか、私にはわからない。息子さんだったら、あなたはそう思わないでしょう、とも言われたが、それもどういうわけそんなことを言われたのかわからない。

私の考えは、長女だからそう、長男だからそうではない、というようなことではない。私は日本の親は、子供を学校に入れるのに夢中になりすぎていて、それはないかと思っっている。それより、子供がどういう性格で、何が得意なのか、得意なものをもたせるのに、どんな環境をつくってやったらよいか、そういうことを考える必要がある。もしないかと思っっている。そうしたら、子供は自分で、道をひらいて行くのではないだろうか。そこに子供が自信をもって、人生をよりよく生きることを考え出すのでないか。

よい学校を出てよい所

へ就職してと、余り考えすぎると、かえって大切なものを忘れるのではなからうか。よいというのは、自分にとってよいので、一般によい学校とか、よい仕事とかがあるのではないだろうかと思う。どんなことでも、それに喜びを見出し、これこそ自分の生命を打ちこむ所だと考えたらし、それがよい所だと思っ。私はささやかでもよいから、本当の人生を渡るように子供にねがっているし、そのため勉強しているのだと思っっている。

娘にどこか試験を受けたい学校があるかと、聞いてみたら、娘は、いやそんな気はない、と答えた。試験勉強より私は英語の勉強の方が面白いと答えた。娘は今、英語の先生の所へせつせとかよって、面白がつているようである。

私はそれでいいと思っ